

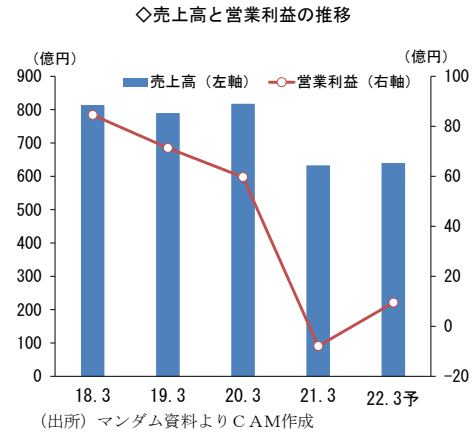
# 企業ニュース マンダム

(東証1部: 4917) <https://www.mandom.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

## 「ギャツビー」を主力とする男性用化粧品大手

男性用化粧品大手。「ギャツビー」「ルシード」などのブランドを有し、ヘアスタイリング剤やスキンケア製品などを手掛ける。女性用スキンケアブランドも展開している。21.3期の事業別売上高構成比は、男性事業60%、女性事業30%、その他10%。また同期の国別売上高構成比は、日本61%、インドネシア19%、海外その他20%。2021~2023年度の中期経営計画では、最終年度に売上高815億円、営業利益率8%以上を目指すとし、3年をかけてコロナ禍前の水準を回復する計画。海外や女性事業の成長加速を図るとともに、ギャツビーブランドは再成長に向けてヘアスタイリング剤中心のイメージからメンズコスメティックブランドへの認知変容、新ラインの立ち上げに挑戦する。



## 国内市場の回復に期待

21.3期の連結業績は、売上高が633億円、前期比23%減、営業利益が8億円の赤字、同68億円減(前年同期は60億円の黒字)。コロナ禍での外出自粛が影響し、当社が強みとする男性用ヘアスタイリング剤や女性用クレンジング製品の需要が国内外で減少。加えて、国内の天候不順により制汗剤など夏シーズン品の販売不振も影響した。利益面では販管費の削減を行ったものの、減収による粗利益の減少影響が大きく、40年ぶりの営業損失となった。最終利益は投資有価証券の売却益を計上し、黒字を確保した。

22.3期の通期会社計画は、売上高が640億円、前期比1%増、営業利益が10億円、同17億円増(22.3期より「収益認識に関する会計基準」を適用、遡及修正した売上高は前期比約7%増)。コロナ禍の影響は上半期で収束する前提、また東南アジアのロックダウンの影響と国内の需要回復を慎重にみている。インドネシア子会社の第1四半期(2021年1-3月)実績は、前期の第4四半期(2020年10-12月)と比較して悪化しており、海外の回復ペースには注意が必要であろう。一方、国内は足元の男性用化粧品市場に回復の兆しが見られており、当社の業績も回復に向かうとみられる。

## [株価動向・投資判断]

外出機会の増加による需要回復に期待。ギャツビーブランド再成長の施策にも注目したい。

<4917 マンダム 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	81,774 (▲4)	5,970 (▲16)	6,706 (▲18)	4,445 (▲13)	97.7	62.00
21.3	63,310 (▲23)	▲793 (—)	▲273 (—)	860 (▲81)	19.2	32.00
22.3 予	64,000 (▲1)	950 (—)	1,220 (—)	720 (▲16)	16.1	36.00

(注) 22.3期より「収益認識に関する会計基準」を適用。



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/6/25)	2,087 円
年初来高値 (高値日)	2,206 円 (21/4/15)
同 安値 (安値日)	1,562 円 (21/1/25)
予想 P E R (22.3 予)	130.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,431.4 円
P B R	1.46 倍
予想配当利回り	1.72 %
(1株当たり配当金年36.00円)	
R O E (21.3)	1.3 %
発行済み株式数	4,827 万株